

# ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

## 千葉県経済の動き

### 概況

最近の県内経済を見ると、輸出関連メーカーの生産水準は高いものの、原油高や原材料価格の高騰から企業収益が一段と悪化し、個人消費も低迷するなど、減速感が強まっている。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」（08年7月実施）によると、4～6月期の売上BSI（全産業）は▲七・三と前同比▲二・九悪化した。収益BSI（同）も▲十二・〇と同▲四・一悪化し、水準も10四半期連続で「悪化」超となった。

県内小売業の販売動向は、生活必需品の相次ぐ値上げで消費者が生活防衛に動いているほか、後期高齢者医療制度、年金問題等が影響し、高齢者が消費意欲を減退させており、夏物衣料の売れ行きが低調で、中元商戦も売上目標を下回っている。旅行業界でも、ガソリン高や燃油サーチャージの上昇等から消費者が旅行や外出を控えており、夏休みの予約状況も前年を下回り、思わしくない。

県内新設住宅着工戸数（3～5月期）は、前年同期比▲十三・五%と5四半期連続で前年割れとなった。なかでも分譲マンションの落ち込みが目立っている（同▲二六・一%）。

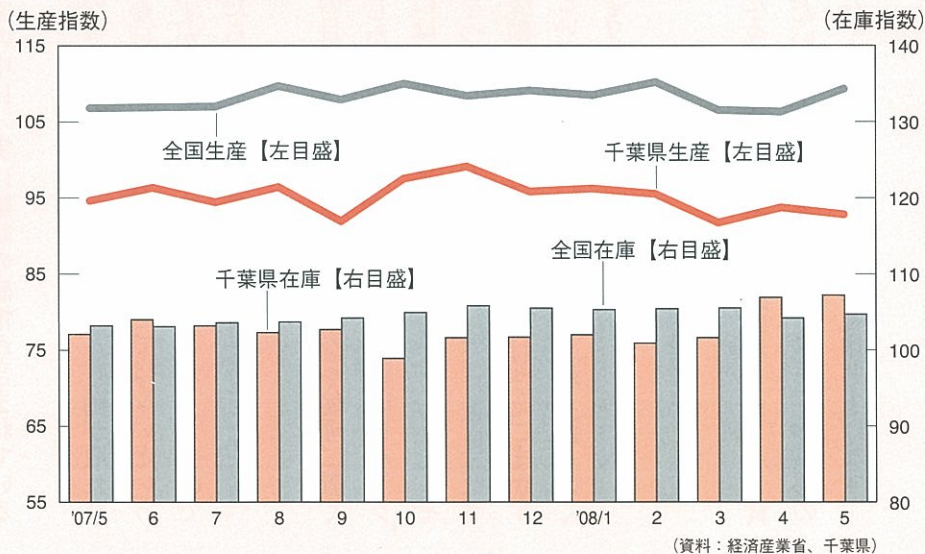
また、4～6月期の県内公共工事請負額は、前年の成田空港関連や館山自動車道の工事など大口工事の反動減もあり、前年同期比▲一〇・四%減少と3四半期連続で前年を下回った。

08年度設備投資計画額（08年7月調査）は07年度実績を▲十六・八%下回った。内訳は、製造業が同▲一・七%減少、非製造業が同▲二九・二%の大幅減少となった。年度間の設備投資額の水準（全産業）も、九五一億円にとどまり、最近六年間で最低となり、一〇〇〇億円を割り込んだ。

千葉県の有効求人倍率（季調値）は07年6月に一倍を超えた後、横ばいをはじめ08年4月まで八か月連続で悪化した（3月〇・八八倍→4月〇・八五倍）。5月は〇・八七倍とわずかながら改善したが、水準は低い。

（古川）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100）



## 消費関連

08年4～6月期の県内消費関連業界の売り上げは、ガソリンや食料品など生活必需品の相次ぐ値上げなどから消費者の生活防衛志向が高まっていることもあり、総じて悪化している。

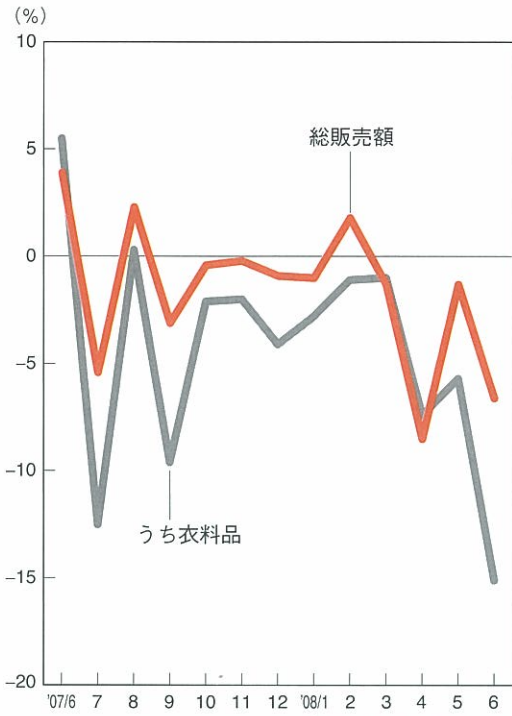
業種別に見ても、百貨店やレジヤ―施設、ホテルなどで、4月以降明らかに業況が悪化してきたとの声が多く聞かれる。県内百貨店はぜひたく品買い控えの影響で、来店客数、顧客単価

ともに落ち込んでおり苦戦している。スーパーは売り上げこそ堅調に推移しているが、大手スーパーとの競合上、仕入価格上昇分の販売価格への転嫁が一部にとどまっておらず、収益は悪化傾向にある。外食産業、ホテル、レジャー施設などでも、来店客数、顧客単価とも前年割れの傾向にあり、業況は総じて厳しいとの見方。

一方、ホームセンターでは、高額商品の売れ行きは低迷しているが、消費者の節約志向から省エネ・エコ商品の売れ行きは堅調で、買上個数が増加している。

(酒井)

■千葉県百貨店販売額伸び率 (対前年同月比)



(資料：ちばぎん総合研究所)

## 食料品

県内食料品メーカーの4～6月期の収益B S Iは▲六・七と2四半期ぶりに悪化した。

原料の穀物価格が大幅な上昇を続ける中、製粉業界や食用油業界などでは、相次いで値上げを打ち出し、収益の改善を図っている。しかしながら、穀物価格はバイオディーゼル向けの需要拡大や世界的な食料需要の高まりを背景に上昇基調が続いていることから、さらなる値上げを見込んでいる先が多い。

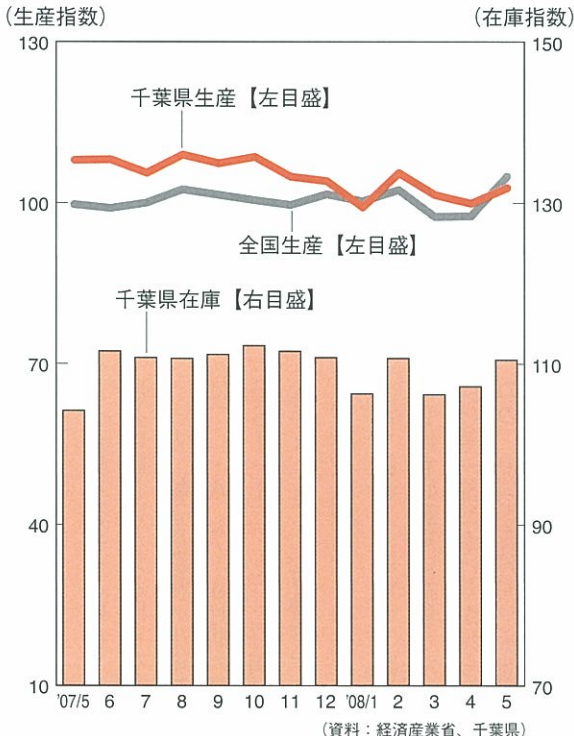
食用油メーカーでは、菜種価格などの原料価格上昇に対する販売価格は正が追いつき始めたが、穀物価格だけでなく原油高に伴う運送費や包装資材などのコストもかさんでおり、さらなる値上げは避けられないと見ている。

また、川下に近い食品加工メーカーでは、従来は経費を削減することで収益を確保してきたが、鶏肉、油、卵などあらゆる原料価格の値上がりが続いていることから、自社努力でまかなえる水準を超えているとして、出荷先に対して出荷金額の引き上げを要請している。

(古川)

■食料品の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



(資料：経済産業省、千葉県)

## 住宅・建設

県内の08年3～5月（5月が最新統計）の新設住宅着工戸数は前年同期比▲十三・五%と5四半期連続で前年割れとなった（07年3～5月・同▲十六・九%、6～8月・同▲二六・〇%、9～11月・同▲二九・六%、07年12月～08年2月・同▲一・六%）。なかでも、分譲マンションの落ち込みが大きく（同▲二六・一%）、08年3～5月のマンション契約率も七二・三%と、好不況の境界である七〇%をかうりして上回るなど、供給、販売とも低迷が続いている。

大手マンション業者からは、地価上昇の勢いは鈍化し東京圏の一部でも下落地域が出始めたものの、現在の地価水準でマンション用地を仕入れても鋼材等建築コストが高騰しており、ユーザの手の届く価格設定が難しいため、当面は用地仕入れに動けないとの声も聞かれた。

08年4～6月の県内公共工事請負額は、前年に成田空港関連や館山自動車道の工事、柏駅東口再開発などの大型工事があった反動減もあって、前年同期比▲一〇・四%と3四半期連続で前年を下回った。（橋本）

## 機械

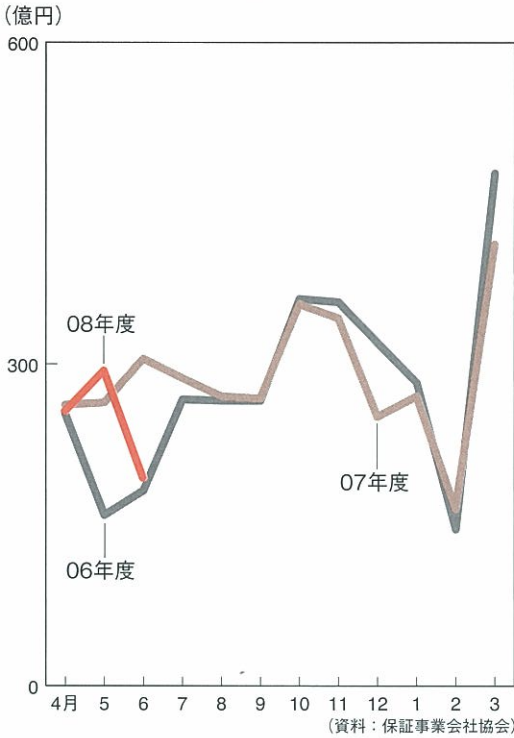
県内電気機械メーカーでは、新年度入り後も大手メーカーからの発注計画に下方修正の動きが見られた。これは、メーカー各社が米国の消費動向を弱いと受け止め、さらにその落ち込み分をアジア等の新興国需要でも埋めきれないと見ていることによる。

県内一般・精密機械の4～6月期生産BSIは、▲三・〇（前回比+〇・九）と若干改善したが、収益BSIは▲五・九と引き続き「悪化」超となっており、最近の原

材料価格高騰に伴う製造コスト上昇分の販売価格への転嫁不足から収益は厳しいと見る向きが多い。

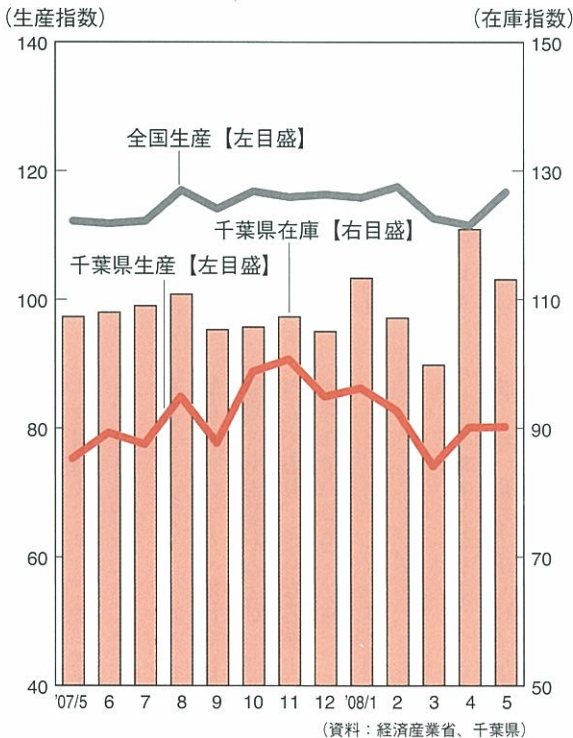
一方、輸送用機械の生産BSIは二二・八（7～9月期の見通しBSI…十三・七）と好調。国内大手メーカー（自動車やトラック、建設機械など）の生産は、高水準で推移し、県内の下請け企業の受注も好調裡に推移した。北米向け等一部にかけりが見られるものの、中国等新興国や産油国などのインフラ整備に係る建機需要など旺盛な外需が引き続き増勢を続ける見通しであり、県内下請け企業の受注も好調を維持する見通し。（橋本）

■千葉県公共工事請負額推移



■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100)



## ITソフト

5月の情報サービス業(全国)の売上高は、前年同月比+11.2%増加と五か月連続で前年を上回った(4月・同+16.9%増加)。売上高の半数以上を占める受注ソフトウェア開発は、金融業向けなどが堅調で、同+14.6%増加した。

県内のIT関連業者四〇社で構成する協同組合の経営動向調査(08年6月実施)では、郵政民営化や特定健診の義務化など、大型の受注案件に支えられ、半数以上の企業が前年同期比で増収増益と

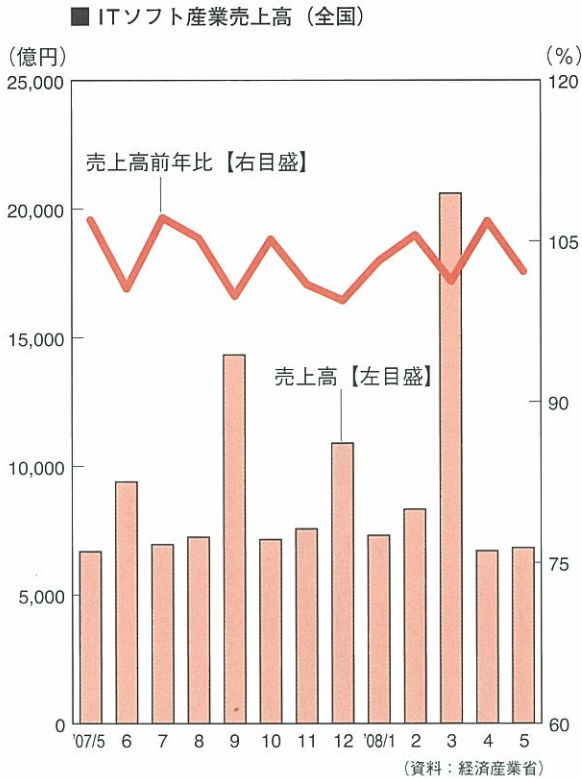
答えている。

県内IT企業では、需要増加の見通しである社会保険庁の名寄せ業務やWebシステム関連へ注力する企業なども見られた。

一方で、米国経済の減速、原材料価格高騰などの影響を受けて、主力契約先である製造業の設備投資意欲の減退を危ぶむ声が多く聞かれた。

また、都市銀行システム統合案件の収束により、好調だった金融業向けのソフトウェア開発業務の動きの減速が予想されるなど、受注環境の悪化が懸念される。

(中島)



## 窯業・土石

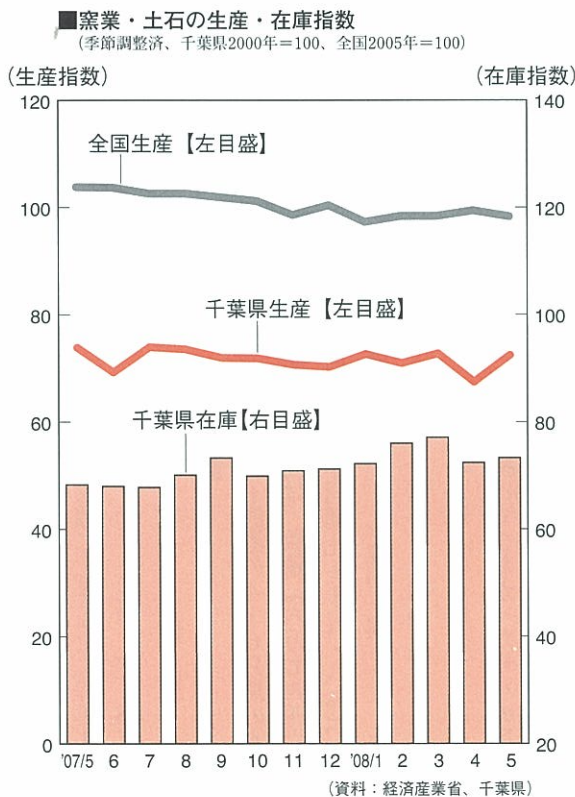
県内の生コンクリート主要協同組合(北部・西部・中央)の4～6月期の出荷量は、前年同期比▲三三・三%減少と、5四半期連続で前年を下回った。これは、地価や鋼材価格の上昇、マンションの販売不振などから民間建築向けの出荷が低迷していることによる。

千葉中央協同組合(千葉・市原・袖ヶ浦)の4～6月期の出荷量は、前年同期比▲三〇・九%と大幅に減少した。需要低迷による出荷量の大幅減少と原燃料価格上

昇分の出荷価格への転嫁遅れから収益環境は大幅に悪化している。千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)の4～6月期の出荷量は、同▲二八・三%の減少。郊外

物件を中心とした販売不振、鋼材価格の上昇などから、開発案件の事業採算が悪化しているため、出荷が長期保留となる案件が増加している。千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)の4～6月期の出荷量は、同▲三八・九%の大幅減少となった。建築業界は、公共工事の減少や原料価格の高騰など、厳しい経営環境にあるため、大きな需要拡大は見込めないと見ている。

(福田)



# 鉄鋼 石油・化学

## 鉄鋼

4～6月期の県内高炉メーカー二社の粗鋼生産は、世界的に旺盛な鉄鋼需要を反映し、高水準の生産が続いている。

県内鉄鋼・非鉄金属企業（中小企業が中心）では、企業収益の悪化や鋼材価格高騰による投資採算の悪化などで、主力の中小建築設備投資向けの鋼材需要が低迷している。鉄鋼流通・加工業者では鋼材需要の不振から仕入価格上昇分の販売価格への転嫁も厳しくなっ

ており、さらなる収益環境の悪化が懸念されている。（福田）

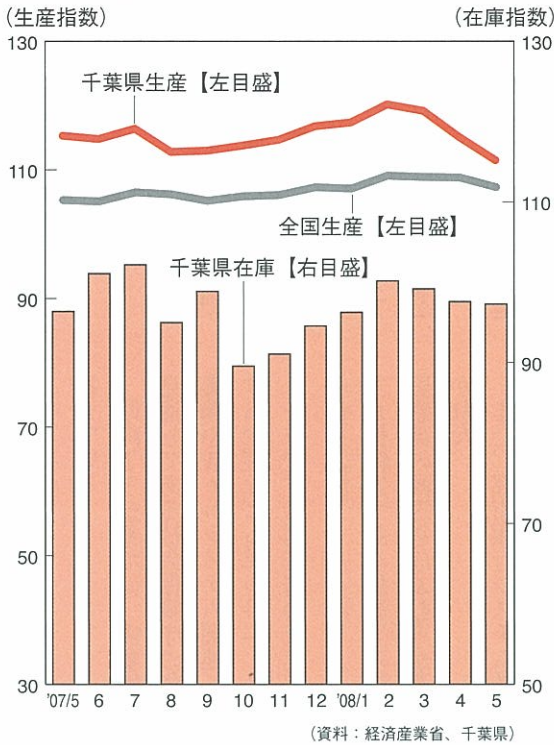
## 石油・化学

4～6月期の国産ナフサ価格は、原油価格の高騰が続いている影響から七万二〇〇円/kg程度と、3四半期連続で過去最高を更新する見通し。大手石油化学会社が原料ナフサ価格の上昇分に加え、燃料費など生産経費の増加分を販売価格に転嫁しているため、川下の加工メーカーが使用する原料樹脂価格の上昇幅は拡大している。

県内企業では、原料価格の上昇や国内景気の減速などの影響で、汎用樹脂の出荷量が徐々に減少している先も見られた。（福田）

## 鉄鋼業の生産・在庫指数

（季節調整済、千葉県2000年=100、全国2005年=100）



# 農業・漁業

## 農業

4～5月の千葉県産主要野菜一〇品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が四万一一三八t（前年同期比▲三・〇％）、平均単価が一三七・七円/kg（同＋一〇・〇％）となり、出荷金額は五六・五億円と同＋七・二％増加した。

平均単価の上昇は、3月の寒さによる生育遅れ、4月の天候不順、5月の低温・多雨・日照不足により、出荷量が減少したことによる。なかでも、ニンジン<sup>はんよう</sup>は出荷量が同▲十八・二％減少し、平均単

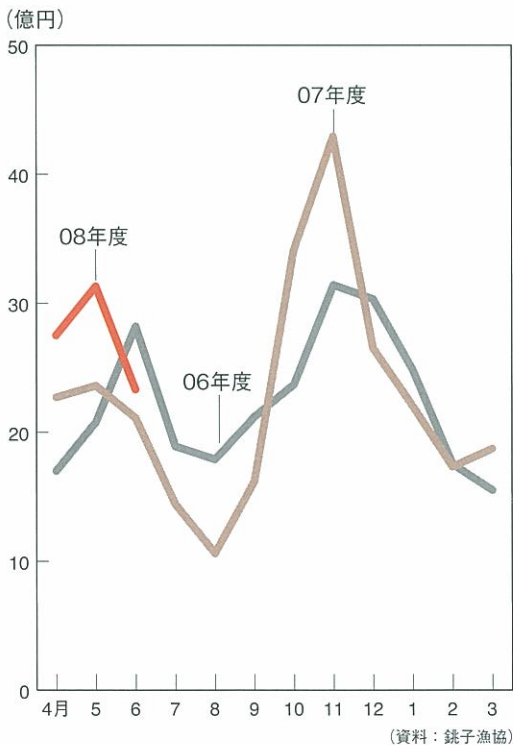
価が大幅に上昇した（07年4～5月・一一三・〇円/kg ↓ 08年4～5月・一九三・五円/kg）。（古川）

## 漁業

銚子漁港の4～6月期の水揚げ状況は、数量（六万七四四六t…前年同期比＋十五・八％）、金額（八二・一億円…同＋二一・八％）とも前年を上回った。これは、07年の3月から6月末までまったく水揚げできなかったサバの反動増によるもの。

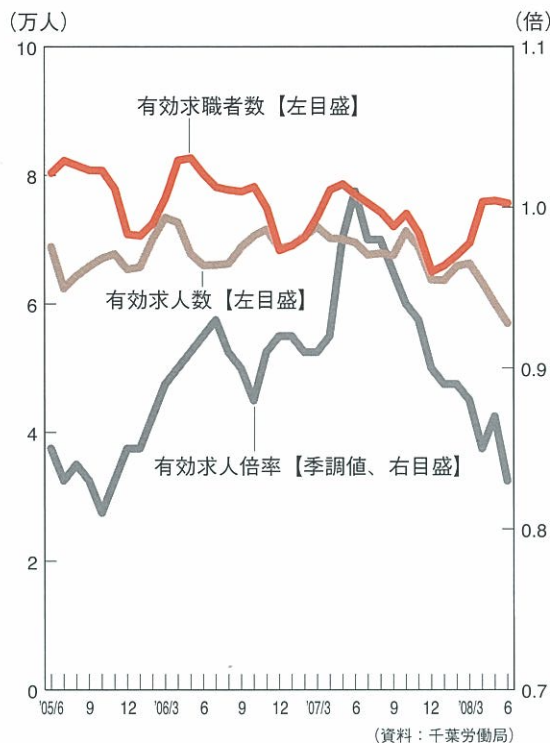
勝浦漁港の4～6月期の水揚げ状況は、数量（二万二二一四t…同▲五四・一％）、金額（四三・七億円…同▲二九・三％）とも前年を大幅に下回った。（古川）

## 銚子漁港の水揚げ額



## 雇用

■千葉県内労働需給状況



千葉県の有効求人倍率(季調値)は、07年6月に一倍を超えた後、横ばいをはさみ08年4月まで八か月連続で低下した(3月:〇・八八倍↓4月:〇・八五倍)。5月の有効求人倍率(同)は〇・八七倍と前月比〇・〇二ポイント改善したものの、千葉県労働局では「企業業績が悪化する中での雇用控えは変わっておらず、低下傾向は続いている」としている。

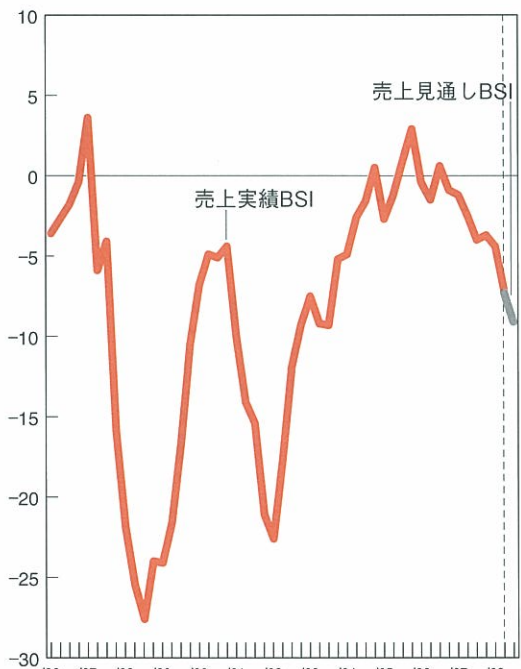
4～6月期の雇用BSI(全産

業)は三・九(前回比▲四・〇)と「不足」超幅は縮小したが、水準は16四半期連続で「不足」超となった。製造業では〇・六(前回比▲五・七)と雇用不足感が弱まっている。このうち、製造業の中小企業では▲〇・八と、04年4～6月期以降16四半期ぶりに「過剰」超となった。

こうした中、県内の製造業では、受注の減少による稼働率の低下に対応するため、派遣社員の削減を行う先や、製造ラインの見直しにより生産性の向上を図る動きなどが見られた。(中島)

## 企業経営 動向調査(BSI)

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2

08年4～6月期の県内企業の業況判断BSI(全産業)は▲七・三と前回(1～3月期)比+〇・八改善したものの、水準は6四半期連続で「悪化」超となった。このうち製造業は▲四・三と前回比+七・一改善したが、非製造業は▲一〇・七と前回比▲六・五悪化した。製造業は大企業、中小企業とも改善したが、非製造業の大企業では前回比▲十二・二と大幅に悪化した。また、非製造業の▲一〇・七は、統計開始以来二番目に

低い水準となった(最低水準は03年4～6月期の▲十二・八)。

売上BSI(全産業)は▲七・三と前回比▲二・九悪化し、7四半期連続で「減少」超となった。

08年度設備投資計画(全産業)は、07年度実績を▲十六・八%下回った。内訳は、製造業が▲一・七%減少、非製造業も同▲二・九%と大幅に下回った。期初計画比では一・八%の小幅上方修正となった。

雇用BSI(全産業)は三・九(前回比▲四・〇)と「不足」超幅が縮小したものの、水準は16四半期連続で「不足」超となった。(橋本)